

保育から始まる

持続可能な社会づくり

(株)キッズ・プランニング

近年、企業や自治体に加えて教育現場でもSDGsの理念を取り入れる動きが広がり、特に幼少期から環境や社会貢献の意識を育む重要性が注目されている。

そうした中、保育園「キッズ・キッズ」の運営を中心に、病院内・事業所内保育所の支援や保育所開設のプランニングを手掛けるキッズ・プランニングでは、自然な形でSDGsを取り入れた保育を実践し、高く評価されている。



2022年度の「北九州SDGs未来都市アワード・ESD賞」(上)と「福岡市環境行動賞・最優秀賞」をW受賞

それを物語るのが、2022年度の「北九州SDGs未来都市アワード・ESD賞」と「福岡市環境行動賞・最優秀賞」のダブル受賞である。会社設立20周年の節目に、これまでの取り組みを文書化して提出すると、思いがけず受賞につながったエピソードは印象的だ。白木淑子社長は「最初からSDGsを意識したことはなく、難しいことをしている感覚もなかった。ただできる事をコツコツと続けてきた結果が評価され、正直、恐縮した」と笑顔で振り返る。

その言葉通り、同社のSDGs活動に特別なものはなく、園児たちが「楽しみながら学べる」ものばかり。例えば近隣公園での花壇づくり、ワクチン支援のペットボトルキャップや水質浄化剤に再利用される使い捨てカイロの回収、



ペットボトルキャップの回収に協力する園児

子供服のリユース、フェアトレード食材の給食、残渣のコンポスト化など、身近な活動を通じて自然や社会との親しみを育んでいる。

またインクルーシブ保育にも積極的に取り組む。2018年からは川端悠子臨床心理士と巡回保育の仕組みを構築し、障害のある子や海外の子どもも抵抗なく保育園が受け入れる環境づくりを推進。その事例は19年の日本乳幼児医学・心理学会、20年の日本発達心理学会でも発表され、専門家介入の意義が注目された。

これらの取り組みは保護者や地域、パートナー企業との連携を通じて広がり、「環境美化」「人道支援」「資源活用」など多方面でSDGs

に貢献することに。「子どもの頃に身についた『モノを大切にする』気持ちや習慣は、大人になっても続く」。そう語る白木社長は、身近にSDGsに触れられる環境の重要性を強調する。また園全体としても、画一的ではなく立地や建物構造に応じ、できる範囲で継続する意識を大切にしている。

子どもたちが未来を生き抜くための価値観を育むキッズ・プランニング。「楽しく、無理なく、身近なことから」。この姿勢こそが持続可能な社会への第一歩となる。保育業界におけるSDGsのトップランナーとして走り続ける同社の今後に注目したい。



2024年秋、大英産業が進めるSDGsプロジェクトの認定パートナーに選ばれ認定証を受け取る白木社長(右)。様々な企業との連携はSDGs活動の推進力に